

1. はじめに

ドイツ・デュッセルドルフで 8/27-28 の 2 日間にわたり開催された第 49 回 中東協力現地会議に参加したので、その内容を報告する。

本会議には、経済産業省、外務省の省庁関係者、および中東地域で事業を行う企業の現地駐在員を中心に 250 名規模の参加者であった。今回のテーマは「新局面への適応力と柔軟性：日本と中東のパートナーシップのさらなる深化」であった。

※「中東協力現地会議」について

<https://www.jccme-forum2026.com/>

2. 内容

【イラン戦争状況】

- アメリカの中東への関心低下によるイラン、及び代理勢力の台頭が今回の紛争の遠因にある。
- また、2 期目のトランプ政権において、米国の本質的な帝国主義的要求・主張を隠さなくなった状況で、イスラエルに勝たせられる形で、アメリカが両派を牽制。イラン側としても、本意ではなく、押し付けられた戦争と認識している。
- アメリカ-イスラエルが望むイラン政変の實現は、イランとしては絶対に受け入れられず、政変實現を表明することが、よりイランが国際に孤立的な状況となる。イランは強気に抵抗。ホルムズ海峡においても従来の紛争より広いエリアで影響力を行使している。
- ホルムズ海峡は、海産ケーブルが敷設されており、重要インフラの重要拠点。これが攻撃対象となる



この記事は、賛助会員・情報提供サービス購読者限定です。

お申し込み後、続きをご覧くださいのための閲覧用パスワードをお送りします。

賛助会員・情報提供サービス購読者の方は、
下のボタンから続きをご覧ください。

続きを読む

◆情報提供サービスのお申込みはこちら >

◆賛助会員については、こちらからお問い合わせください >